

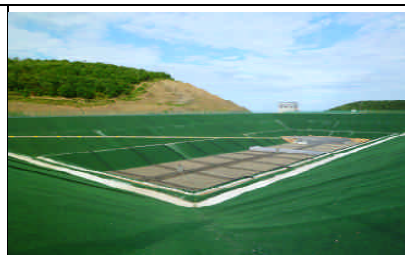
グループ名 ・代表者名	モペツ・サンクチュアリ・ネットワーク 代表 畠山 敏	助成金額	30万円
連絡先など	小泉 雅弘 (札幌事務局) koizumi@sapporoyu.org		
助成のテーマ	アイヌ民族の権利回復に根ざした海と陸 (おか) をつなぐ持続可能な地域づくりに向けての調査研究～北海道・紋別～		

【調査研究の概要】

北海道の紋別市内を流れるモベツ川の支流、豊丘川の水源地に管理型産業廃棄物最終処分場が建設され、2012年8月には操業を開始した。この地区は、かつてコタン (集落) が形成されていたアイヌ民族にとって重要な土地であり、現在もモベツ川の河口部では、地元のアイヌ民族によってカムイチェップ・ノミ (サケを迎える儀式) が行なわれている。当ネットワークは、紋別の自然環境の保全・活用を通して、アイヌ民族の権利回復を推進していくことを目的に結成されたが、産廃処分場の操業によりアイヌ民族にとって特別な意味をもつサケの遡上する河川環境に影響が出ることを懸念している。今回の調査は、①モベツ川および豊丘川における野生サケの遡上・産卵を立証すること、②その水質調査を行なうことで産廃処分場の建設・操業が河川環境に与える影響を明らかにすること、③地元住民や関係者からの聞き取り・文献調査から当該地域の歴史的、文化的価値を明らかにすること、を目的として実施している。

【調査研究の経過】

2012年8月：リテック社 (産廃業者) に処分場の営業許可がおりる
9月：モベツ川河口にてカムイチェップ・ノミ開催、産廃処分場への立ち入り検査の実施、モベツ川水系水質調査の実施
11月：モベツ川水系水質調査、サケ遡上観察調査の実施、地元関係者からの聞き取り
2013年2月：紋別にて、関係者間の話し合い、関係者からの聞き取り調査



豊丘川水源地に完成した産業廃棄物最終処分場 (2012年9月撮影)

【今後の展望など】

- ・操業を開始した産廃処分場については引き続き水質調査を継続していくとともに、公害防止協定の締結によって得られた調査結果の取得や立ち入り検査の権利を活用し、監視を継続していく。
- ・水質調査の結果、既存の一般廃棄物処分場や近隣のゴルフ場 (元丘川)、旧鴻之舞金山の沈殿池からの汚水 (モベツ川) などが水質に悪影響を及ぼしている現状が確認された。新設の産廃処分場の影響と合わせ、これらの改善を求めていく必要がある。
- ・野生サケについては、いまだに科学的な検証ができていないものの、11月の調査では豊丘川においてサケの遡上とともに産卵床も確認されており、野生種のサケが生育していることはほぼ確実であるため、専門家などのサポートを得て検証をすすめていきたい。

会計報告書の概要 (金額単位: 円)			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の助成金を充当	他の助成金等を充当	自己資金
旅費	調査旅費 (札幌⇄紋別、東京⇄紋別)	241,764	241,000		764
機材・備品費	水質調査機材購入費	20,790	20,000		790
会議費	会場費	5,040	5,000		40
印刷費	資料印刷	18,900			18,900
協力者謝礼など	謝金、人件費	41,400	34,000		7,400
合 計		327,894	300,000		27,894

参考文献 (ウェブサイトや書籍、成果物など)

- ・モペツ・サンクチュアリ・ネットワーク ウェブサイト <http://mopetsanctuary.blogspot.jp/>
- ・報告書『アイヌ民族の権利回復と持続可能な地域づくり オホーツク・紋別におけるE S Dの取組み 2009-2011』 (編集・発行さっぽろ自由学校「遊」) https://docs.google.com/file/d/0B3bPIq3d7V_ydU0ydXMwLUxxY0E/edit

取組みの背景① アイヌ民族の権利をめぐる動向

- 2007年9月 「先住民族の権利に関する国連宣言」採択
- 2008年6月 衆参両院にて「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」採択
→有識者懇談会が1年後に報告書を提出

- 2009年8月 内閣官房にアイヌ総合政策室設置
- 2010年1月～ アイヌ政策推進会議の開催

※ しかし、アイヌの先住民族としての権利には踏み込んでいない



取組みの背景② 畠山敏さんの思いと行動

- 紋別在住、漁師
- 1988年より、北海道アイヌ協会紋別支部長
- モベツ川河口部において、カムイチェップノミ（サケを迎える儀式）を毎年開催
- イルカ漁の経験に基づき、アイヌ民族生存捕鯨の復活をめざす



背景③ ESDを通じた紋別への関わり

- NPO法人さっぽろ自由学校「遊」
ESD(持続可能な開発のための教育)関連事業の中で畠山さんと出会い、紋別における取組みをESDモデル事業として実施
 - 2009年9月 オホーツク・紋別ESDツアー「オホーツクの森と海、そしてアイヌの歴史と現在」(共催: EPO北海道)
 - 2010年2月 地域ワークショップin紋別「持続可能な紋別に向けて」(共催: ESD-J)
- 地域の生態系の保全・活用をアイヌ民族の権利回復と結びつけながら進めていくビジョンを共有、その実現のためのネットワークが呼びかけられる。
(モベツ・サンクチュアリ・ネットワークの形成)

取組みの経緯① 産業廃棄物最終処分場の建設問題

- モベツ川支流水源域の山中に、産業廃棄物の最終処分場の建設計画が浮上
- 事業主体 (株)リテック
- 周辺住民や畠山さんから地元のアイヌ民族から反対の声があがる。



↑産廃処分場の予定地(建設前)

取組みの経緯② 産廃建設に対する提言・要請活動

- 周辺住民、アイヌ協会紋別支部らによる紋別市への意見書や抗議文の提出
 - 2009年12月、住民有志による反対署名提出
 - 2010年3月、アイヌ協会紋別支部による抗議文提出
- ネットワークによる北海道へのアプローチ
 - 2010年6月・8月、道知事への連名の要請文提出
 - 2010年9月、緊急集会「母なるモベツ川を汚さないで」開催(札幌市にて)
- 市民外交センターによる国連へのアプローチ
 - 2010年4月、国連先住民族問題常設フォーラムの声明
 - 2010年9月、国連人権理事会での声明

取組みの経緯③ 公害審査会における調停

- 2011年3月4日、道の公害審査会に(株)リテックに対する調停申し入れ(申請人: 畠山敏)



- 2012年3月9日、(株)リテックと公害防止協定を締結
～水質調査の報告義務、関係者の立入り調査権を明記



調査研究のねらい



産業廃棄物最終処分場と藻別川水系



- ① モベツ川および豊丘川における野生サケの遡上・産卵を立証すること
- ② モベツ川水系の水質調査を行なうことで産廃処分場の建設・操業が河川環境に与える影響を明らかにすること
- ③ 地元住民や関係者からの聞き取り・文献調査から当該地域の歴史的、文化的価値を明らかにすること

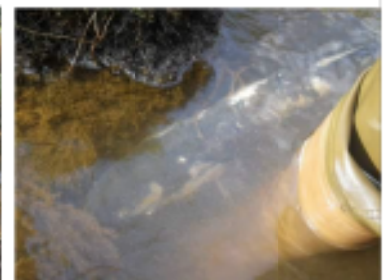
豊丘川における野生サケの遡上・産卵状況の観察 2010年11月

- ・ 遡上するサケの水中撮影に成功
- 「君はワイルドサーモンを知っているか」I・II



豊丘川における野生サケの遡上・産卵状況の観察 2011年11月

- ・ 豊丘川全流域調査。遡上するサケ数体を確認

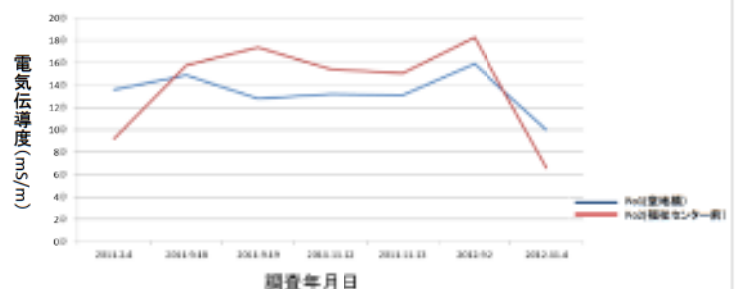


豊丘川における野生サケの遡上・産卵状況の観察 2012年11月

- ・ 広域に渡って遡上するサケ多数を確認。産卵床も確認。

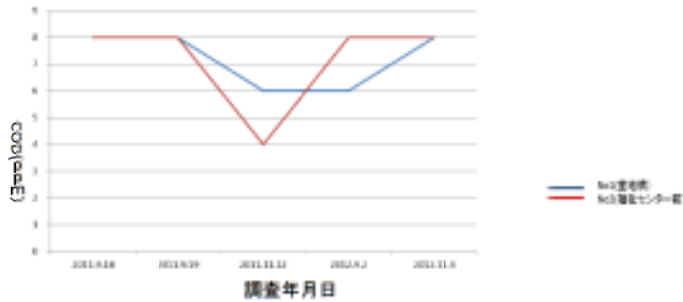


豊丘川の水質変化(電気伝導度)



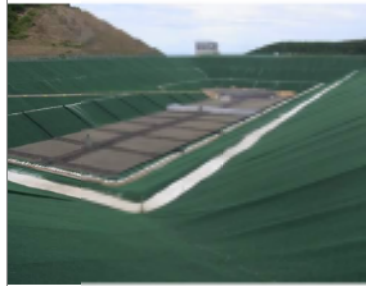
産業廃棄物最終処分場の排水が放流される予定の豊丘川の上流地点(No1)の電気伝導度よりも下流地点(No2)の方が高くなっているのは、この間に牧場排水や生活雑排水などの混入があるためと考えられる。

豊丘川の水質変化(COD)



豊丘川の化学的酸素要求量(COD)濃度を共立理化学製バックテストで測定を行ったところ、両地点とも6~8ppm<の範囲で、若干、上流地点(No1)よりも下流地点(No2)の方が高い傾向が見られた。この傾向は、電気伝導度と同様、この間に汚濁源としての牧場排水や生活雑排水が混入しているためと考えられる。

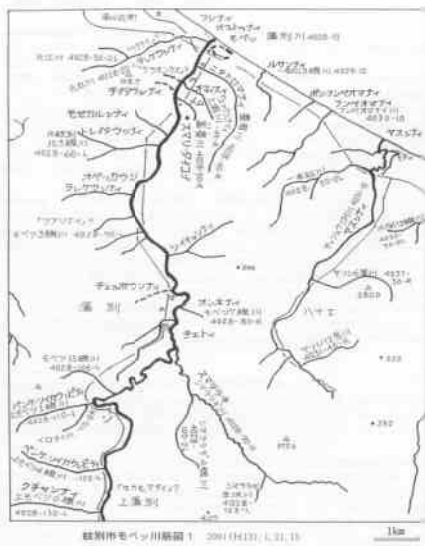
産廃処分場への立ち入り検査 2012年9月



処分場の処理排水は、この池を通過して豊丘川に流れる ↓



↑ 操業開始直後の処分場の様子



モベツ川流域の アイヌ語地名

豊丘川はアイヌ語でニタロマナイ(湿地の間の川の意)、小さな川を含めすべての川にアイヌ語がつけられている。

『アイヌ語地名II 秋別』(北海道出版企画センター)より

調査の結果から ①

- ・豊丘川では、3年連続でサケの遡上が観察される
～サケの自然遡上・自然産卵が定着している貴重な自然環境であることが確認された。ただし、豊丘川の大部分は三面張りで、必ずしもサケの生育に適した環境とはいえない。
- ～野生種の科学的検証はいまだできていないが、ほぼ確実。研究者のサポートによる検証が必要。
- ・豊丘川の現在の水質は概ね良好
～23種以上の底生動物の生息の確認(北海道レッドデータブック希少種を含む)
- ～処分場の操業前から操業直後までの水質調査では目立った数値の変化はなく、概ね良好。操業の本格化による今後の影響が懸念される。

調査の結果から ②

- ・一方、既存の一般廃棄物処分場やゴルフ場(元丘川)や金山開発による沈殿池の汚水(モベツ川中流)などが水質に悪影響を及ぼしている。
- ～新設の産廃処分場の影響と合わせ、これらの改善を自治体などに求めていく必要。

元丘川に隣接するゴルフ場



沈殿池から流れ出る汚水(モベツ川)



考察～今後に向けて

- ・良質な河川環境を守り、育むために
 - － 市民や行政、事業者の意識変革が不可欠
 - － 野生サケの遡上する豊かな河川環境のもつ価値を広くアピールしていく必要性
- ・アイヌ民族の権利回復と地域の自然環境保全
 - － 地域の自然環境や資源を管理する主体は誰か？
 - － 一般に意識されていない地域のアイヌ民族の歴史・文化・生活に関する調査をすすめる、それらを可視化する
- ・環境と生業、文化を結びつけた新たな地域づくりモデルの創造
 - － 生活の維持と環境保全や文化継承の両立が困難なアイヌ民族の現状をどう克服していくのか